

3) 西の湖の貝類生息状況

西森克浩・上野世司

【目的】

西の湖の貝類生息状況を把握する。

【方法】

平成12年11月30日に西の湖の15地点(図1)において鋤簾(じょれん)で湖底を搔いて貝類を採集した。鋤簾の捕捉限界は約1 cmである。調査地点すべてにおいてオオカナダモやマツモなどの沈水植物の繁茂が激しかったため定量採集は困難であった。したがって、採集面積は不明で、沈水植物の繁茂状況によって(調査地点によって)採集面積が若干異なると思われる(採集面積は1㎡程度になるよう心がけた)。また、沈水植物の繁茂が激しい地点では、湖底を搔いた面積が小さくなるために、湖底に生息する二枚貝類の採集量が少なく水草にも付着できる巻貝類の採集量が多くなり、繁茂が比較的少ない場合には、その逆になる可能性もある。

【結果】

調査地点別の貝類個体数を表1に示した。採集個体数が最も多かったのは293個体のヒメタニシで全体の80.9%を占めていた。次いで38個体のタテヒダカワニナが全体の10.5%、30個体のタテボシガイが全体の8.3%、1個体のマシジミが0.3%であった。

綱別では腹足綱(巻貝)が91.4%、二枚貝綱が8.6%であった。

イケチョウガイやドブガイなどは貝殻は採集されたが、生きているものは採集されなかった。また、西の湖で多量に養殖されている真珠母貝も採集されなかった。

調査地点別の貝類の出現割合を図2に示した。15地点中4つの地点ではヒメタニシしか採集されなかった。タテボシガイが採集されたのは15地点中10の地点であった。マシジミは1つの地点で1個体が採集されただけであった。

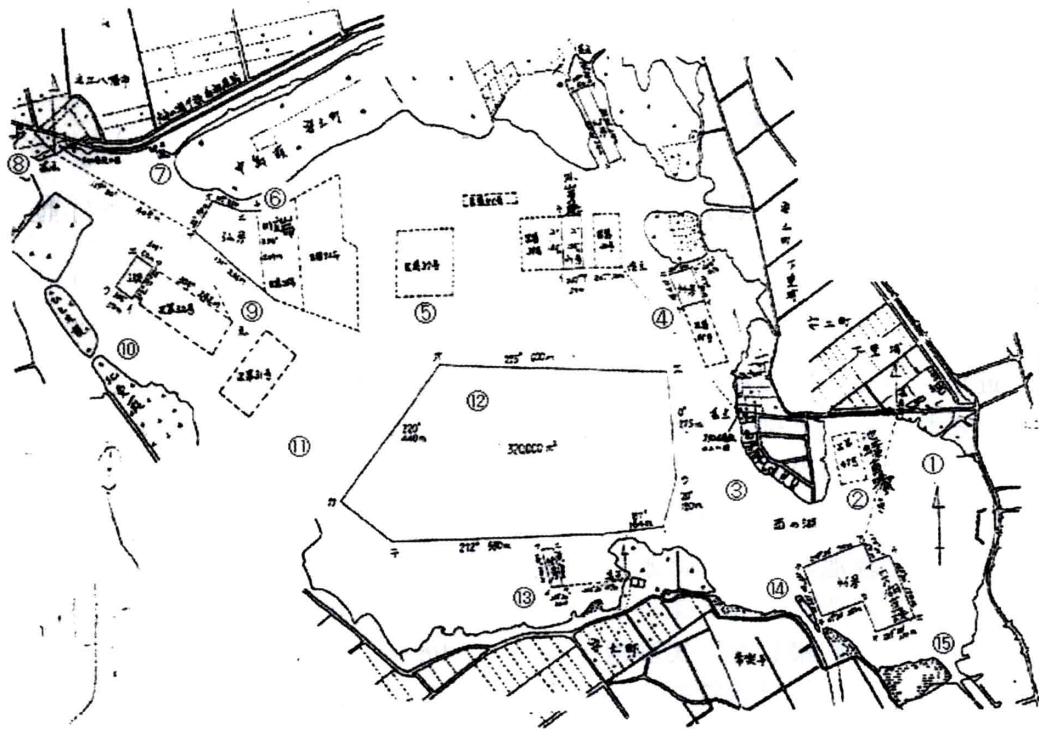


図1 西の湖の調査地点

表1 調査地点別の貝類個体数(個) (約1m²)

地点	ヒメタニシ	タテヒダカワニナ	タテボシガイ	マシジミ	計
①	31	0	0	0	31
②	27	0	0	0	27
③	10	1	2	0	13
④	29	5	2	0	36
⑤	28	0	0	0	28
⑥	4	3	6	0	13
⑦	6	0	0	0	6
⑧	44	5	0	0	49
⑨	25	4	2	0	31
⑩	15	0	7	0	22
⑪	9	2	2	1	14
⑫	7	6	2	0	15
⑬	27	6	5	0	38
⑭	22	6	1	0	29
⑮	9	0	1	0	10
計	293	38	30	1	362

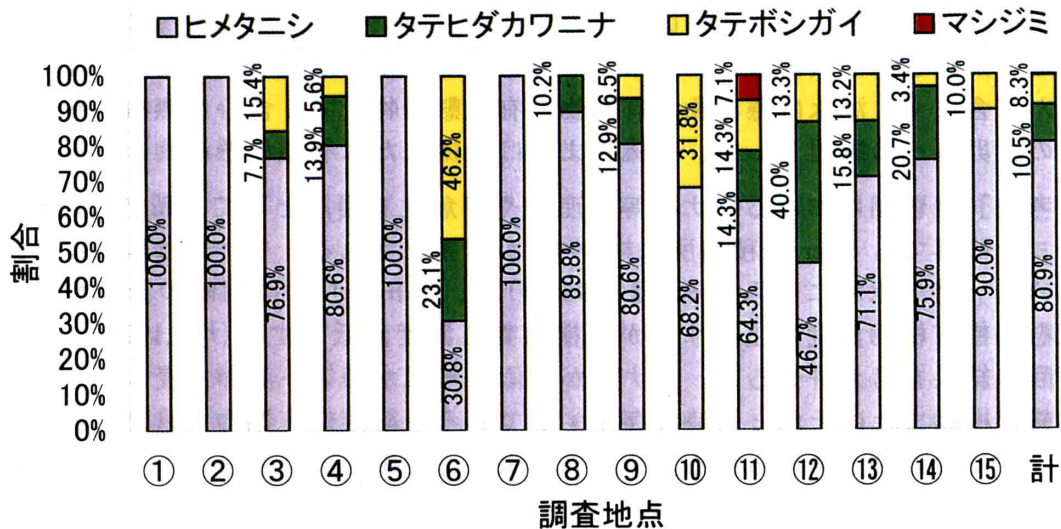


図2 貝類の種別出現割合